

知的障害を伴うASD者に有効な就労支援に関する一考察 —TTAPアセスメントに基づいて—

- 康 一煒（早稲田大学大学院梅永研究室 修士2年）
梅永 雄二（早稲田大学 教育・総合科学学術院 教育心理学専修）

目的

20世紀から自閉症発症率の増加

2000年：150人の子どもの中1人



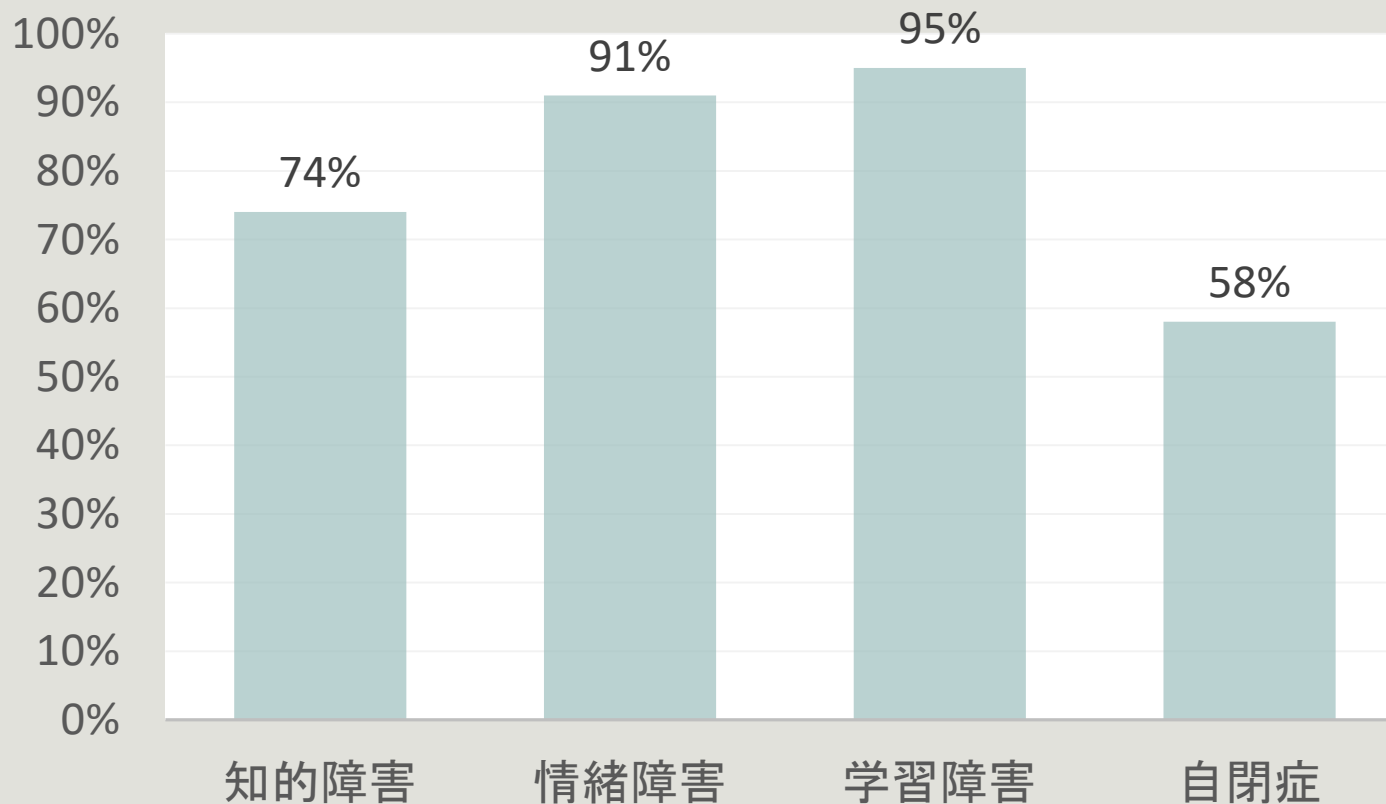
18年間で3倍ほど増加した。

2018年：44人の中の1人になった

アメリカの統計 (CDC,2018) により、全米の子どものうち自閉症の発症率

目的

有給の仕事についている自閉症者の率が低い



■ 有給の仕事についている20代の若年障害者

Paul Shattuck, 2012

目的

- ・ 自閉症の発症率が増加
- ・ 発達障害の中でも自閉症者が仕事に就いてない人が多い

しかしながら、ASD者の就労支援は十分に対応されていない

たったの18%の高機能自閉症者が高校卒業した後で就職支援を受けたことある。

目的



自閉症の人に対する早期診断から成人期の就労、居住支援に至る包括的なサポートプログラムTEACCH Autism Programは、就労支援におけるASD者の89%の職場定着率が報告された。

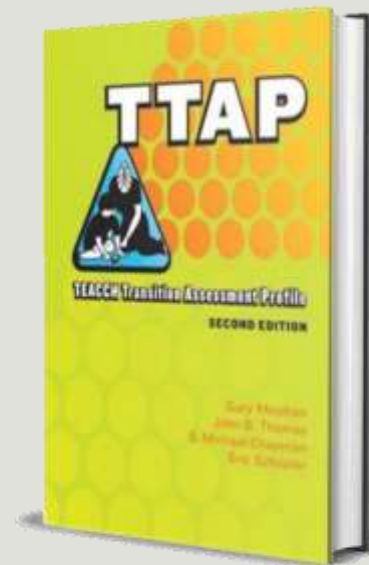
目的

TTAP (TEACCH Transition Assessment Profile)

TEACCHでは、アセスメントに基づいて診断と評価をして、具体的な指導・支援の方法を提供することをとても重要視している

TTAP (TEACCH Transition Assessment Profile) は、学校から地域での成人生活への移行のためのアセスメントである。

3つの尺度と6領域がで評価していく。



本研究の目的

TTAPを使い、軽度知的障害を伴う自閉症児に対する就労支援の方略を見出され、アセスメントを行った結果を報告する。

方法

TTAPの3つの尺度

- 直接観察尺度：
検査道具を使って
実際に検査を行う
- 家庭尺度：
親などの家族に半構造化面接（インタビュー）を行い
記入する行動チェックリスト
- 学校 / 事業所尺度：
教師・職場の上司・事業所の職員に半構造化面接を行
い記入する行動チェックリスト



方法

TTAPの6つの領域

- 職業スキル：
職業的課題を達成する際に必要な特定の技術的能力
 - 職業行動：
職場において自立して仕事をやり遂げる能力
 - 自立機能：
日常生活での自立と自己調整するための能力
 - 余暇スキル：
余暇活動、休憩中や自由時間を適切に過ごせる能力
 - 機能的コミュニケーション：
生活と職業場面に必要最低限のコミュニケーション能力
 - 対人行動：
挨拶や他人の存在に対する反応、集団行動など周りの人との関係
- ハードスキル
- ソフトスキル

方法

採点基準

- 「合格」：実演や手伝いなしで自立して課題を達成できる
- 「芽生え反応」：課題の一部ができる、またはサポートがあればできる
- 「不合格」：サポートがあってもできない

→ 支援目標

方法

対象児

ASDと診断を受けている軽度知的障害児、ナナ（仮名）、16歳

手続き

大学のセッションルームで週一回に一度約50分程度の個人指導を受けた。セッションでは、TTAPを実施し、結果に基づいて職業教育を行っていた。

結果

尺度	セッションでの指導目標:
職業スキル	<ul style="list-style-type: none">・分類で間違いの修正・絵カードの指示書に従う計量作業
職業行動	<ul style="list-style-type: none">・インディペンデンスエリアで一人で作業する際に集中を保つ
自立機能	<ul style="list-style-type: none">・お金の理解・買い物・カレンダー読み

結果

尺度	セッションでの指導目標:
余暇スキル 対人行動	<ul style="list-style-type: none">・遊びのバリエーションを増やす・計算を使って対戦ゲームでの得点を記録する・多人数ゲーム・ルール説明に従ってゲームをする
機能的コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none">・文字による指示を従う

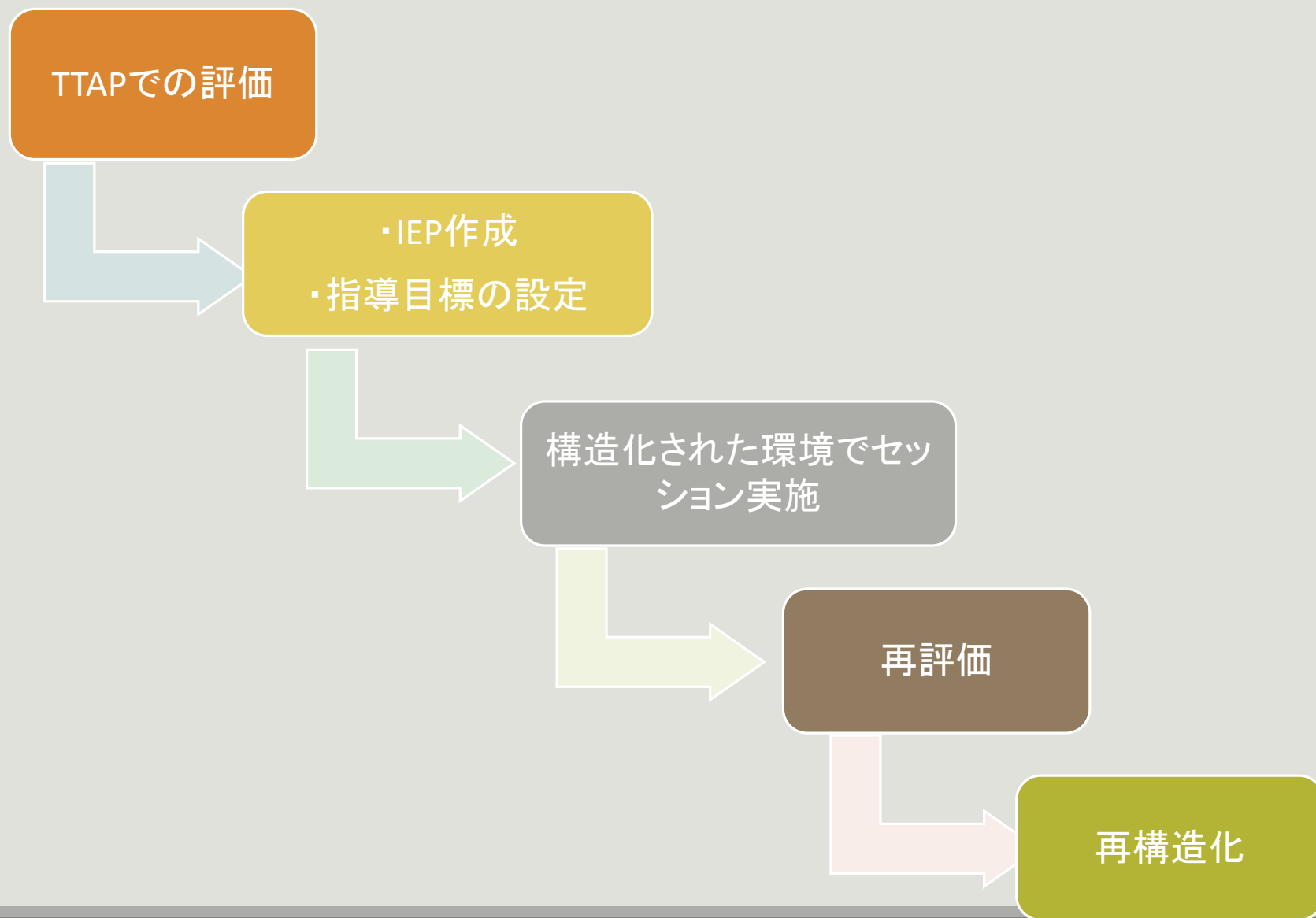
結果 構造化による支援方法の提案

- ワークシステム、視覚的組織化

- スケジュール

考察 評価に基づいたIEP作成

- TEACCHでは援助付き就労によって、数多くのASD者が就職していく。
- 本児もASDと診断されたが、16歳の段階でTTAPを実施することにより、多くの芽生えという領域を見出すことができた。
- IEP（個人指導目標）では、「芽生え」を個別指導目標にしている。本児は早期からアセスメントに基づいて、指導目標を明確にすることによって、芽生えから合格まで導くことができ、高等部に進むにつれて、より具体的な就労への道筋が見出せる。



今後の課題

知的障害に伴う自閉症児者に対する職業教育や就労支援を行っている特別支援学校、就労移行事業所、障害者職業センターなどの施設に、TTAPのような自閉症に特化したアセスメントを導入していくべきだと考えた。

そのためには、学校の教員や施設の職員に、アセスメントに対する専門的な研修を行い、結果から本人の得意と苦手を把握し、芽生えの部分に基づいた指導ができるような専門性を身につけるべきであろう。

ご清聴ありがとうございました
